

外科、整形外科、脳外科、眼科、泌尿器科、婦人科の手術に対応します。心臓外科手術までも可能な手術室です。手術室とICUが直結しており、手術後直接ICUに患者さんが搬送され、術後の治療を受けられるようになっています。

また、一般の入院患者さんが手術室に出入りする「乗換ホール」とは別に、一般のエレベーターホールを出てすぐのところに「日帰り手術(DS = Day Surgery)センター」を作りました(図3上)。独立した受付や事務室、インフォームド・コンセント室(病状や手術の内容を事前に説明する部屋)を持っています。日帰り手術の患者さんは、この出入り口を利用します。

5「循環器病・呼吸器病・糖尿病センター」機能

各分野の専門医が

循環器病・呼吸器病・糖尿病の治療にあたる

現代医学では、“癌”でも“早期癌”は限りなく100%近く治れます。“癌”は元々怖い病気は、狭心症、心筋梗塞、肺気腫、慢性気管支炎、糖尿病といった良性疾患です。これらの病気は完全に治ることは少なく、長い年月付き合わなければいけません。病気が重症化する前、理想的には発症する前に、くい止めることが大切です。

特に、何の前兆もなく急死することもある「心筋梗塞」は、40～50代の働き盛りの年代に発症することが多く、人間ドックや検診で行われる安静時の検査ではなかなか異常が発見されません。

「心筋梗塞」や、その一歩手前の「狭心症」という病気は、心臓の筋肉に酸素や栄養を運ぶ「冠動脈」という血管が、動脈硬化のために狭くなったり閉塞したりして引き起こされます。従来、

確定診断には「カテーテル検査」が必要でしたが、足の付け根の太い動脈を刺して、細い管(カテーテル)を心臓の血管まで挿入して検査するため、検査後長時間右足の付け根を圧迫してのベッド上安静が必要で、入院しなければ受けられませんでしたが、今回当院で導入した最新鋭のマルチスライスCTは、造影剤を腕から点滴するだけで、冠動脈が狭くなっているかどうか確かめることができます。入院せず外来で検査を受けることが可能です。もちろん、細くなった冠動脈を風船(バルーン)で広げたり、金属製の管(ステント)を留置することは従来通りカテーテルを使って行います。

また、肺気腫、慢性気管支炎や糖尿病といった病気も、各々の分野の専門医が最先端の治療を行います。

以上のように、“新”友愛記念病院は、さまざまな医療機能の強化を図りました。

そのために、最新鋭の医療機器をふんだんに揃えました。皆さまが普段かかりつけ医としておかけの診療所の先生方が、精密検査や治療のために皆さまを当院に簡単にご紹介いただけるようになります。地域住民の方々も、診療所の先生方も、「地域の共有財産」として当院を大いに利用していただきたいと思えます。

“新”友愛記念病院をどうぞよろしくお願いたします。

